

## 石川県立中島高等学校の閉校に寄せて

校長 南 龍 保

この3月31日をもちまして、本校は47年の歴史を閉じます。この間多くの方々に支えられ、地域の中核校として役割を担い発展してまいりました。

本校は、昭和38年4月石川県立七尾高等学校中島分校として開校され、昭和44年に新生中島高等学校として独立発足し、爾来5300名を超える人材を世に送り出してきました。

「誠実、清新な気風を養う」の教育目標を掲げ、地域社会の期待に応えるため、明朗闊達、清新澁刺とした校風の樹立を目指した教育活動が展開されてきましたが、卒業生の中には、全国的に有名になっている人もおります。

かつて、昭和40年「中島高校を独立高校とすることについての請願書」の資料を見る機会がありました。それによれば、昭和38年度定員100名に対して実受検者は136名を数えております。また、独立のための関係者の並々ならぬ熱意と努力がひしひしと伝わってまいります。

草創期の苦勞を乗り越え、やがて50年代に入り教育成果として現れ、同51年度には石川県高等学校総合体育大会に於いて陸上競技部男子が総合優勝を成し遂げております。これ以降も、インターハイや国体に多くの選手を送り込み、他には、野球部は2度にわたり北信越大会に出場しております。

50年代後半に入り、60総体を目指して女子ホッケー部が誕生し、県高等学校総合体育大会で9年連続優勝しております。また、女子バスケット部の活躍が始まり、61年にはインターハイ・国体ともに全国3位に入賞する快挙を成し遂げております。

一方、文化部の活躍も運動部にひけをとらず、独立校となってからあまり時間をおかず俳句、短歌、詩の部門で県大会で上位の成績をおさめてきました。さらに演劇部は後の演劇コースのベースとなる実績を築いており、同50年度には中部日本高校演劇発表大会に県代表として出場し、同58年度には同大会には文部大臣奨励賞を受賞

しております。また、放送局は同55年にNHK杯全国高校アナウンスコンクール石川県大会で最優秀賞を獲得しており、かるた部は平成9年に県大会で念願の優勝を果たしました。

平成12年度からは演劇コースが設置され、県内で唯一演劇を学べる学校として位置付けられ、目指すところは、創造性と自己表現の能力を養い、集団活動を通して自主性と協調性の両立を学び、人格の陶冶を図り、円満で心豊かな人間性に努めることを基軸に特色を出してきました。

「無名塾」を主宰する俳優の仲代達矢氏も「中島高校演劇コースを支援する会」の名誉顧問として1999年から2009年（平成19年）まで、ほぼ毎年入学式においてになられ、祝辞を述べられました。

しかしながら、能登における少子化の傾向が強まり、平成2年には、それまでの1学年4クラス体制から3クラスへ、さらに同8年から2クラス体制の小規模校にまで規模を縮小することになりました。その後次第に志願者数の減少がでてきました。この状況を打開するべく関係者による活性化にむけた話し合いも続けられてきましたが起死回生となる具体策は先の演劇コースの導入であったかと思えます。同コースは、今年度第8回をもって最後の卒業公演を無事終えることができましたが、この間、活動内容において県内外を問わず情報の発信をおこない、役割を担ってまいりました。

閉校にあたり、卒業生には青春時代に本校で学んだ3年間をふり返り、良き邂逅の場であった原点を確かめる証として、心の中で存在はますます大きくなっているのではないかとも思います。

終わりに、半世紀近くの長きにわたり、本校を支え本校生を慈しみ育てていただきました地域の皆様、ご指導ご支援をいただきました県当局、歴代校長はじめ旧職員の皆様、同窓生の皆様方のご努力に敬意と感謝の意を表しますとともに、本校に関係した全ての皆様方の今後の御多幸をお祈りいたしまして、惜別のご挨拶と致します。

